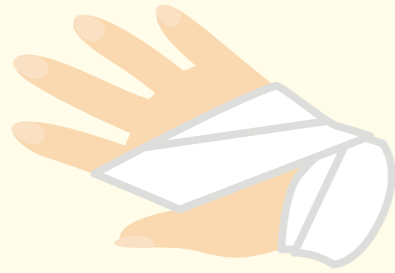


手のケガ・病気と作業療法



奈良学園大学
保健医療学部
リハビリテーション学科
飯塚 照史 先生

人間がつくるほとんどのものは手から生まれます。
また、顔を洗ったり、髪を整えたり、物をつかんだり、手を使わない日はもちろんありません。そのため、いったん怪我や病気で手がうまく使えなくなると、それは様々な生活上の支障を引き起こします。これのリハビリを担当するのは作業療法士です。
今回は、手のケガに対する作業療法の紹介と、加齢にともない発生しやすい手の病気（関節症や腱鞘炎等）の種類や特徴をお話したいと思います。また、近年分かってきた、手の骨折から発生する「骨折の連鎖」のメカニズムと、手の使用を指標とした予防法についてのお話から、健康について考えたいと思います。

開催予定

日時：令和4年12月4日(日) 15:00~16:00
場所：奈良学園大学 1号館405教室

※ソーシャルディスタンス・換気・消毒の徹底等、感染防止対策を行います。
※教員だけでなく学生も参加します。

こちらから
申込みください。



第11回登美ヶ丘カレッジ
申込フォーム

ニュースレター第7号 編集後記ご挨拶

8月開催予定であった「第9回登美ヶ丘カレッジ」は、保育現場等での感染拡大により、親子の参加者様が控えられたようで、残念ながら開催には至りませんでした。9月末になって、徐々に海外渡航や国内への受け入れも緩和されてきました。本学の海外現地研修の再スタートの研修先はタイ王国立チェンマイ大学看護学部です。以下は、看護学科堀内美由紀教授からの現地発の寄稿です。

「9月18日から25日まで、3年ぶりに学部生6名と院生2名が参加です。チェンマイ大学には21の学部があり3万2千人を超える学生が学んでおり、看護学部設置50年の記念すべき年となりました。研修は学内講義と関連施設への訪問で、今回はタイにおけるCOVID-19に対する国の取り組みやチェンマイ大学の学生支援が含まれました。その他、VR(仮想現実)映像や高機能のシミュレーターの看護教育への導入、伝統医療が継承される一方、LGBTQ(性的マイノリティ)に対する社会の承認が進んでいる事など、タイの高等教育を含む社会の様子に触れる内容で、学生たちは日本や自身の生活について振り返る機会になったようです。」

詳細は、奈良学園大学ホームページでじっくりお楽しみください。



奈良学園大学
社会・国際連携センター長
善野 八千子

奈良学園大学 教職員のための公開講座開催

8月18日(木)は、本学保健医療学部リハビリテーション学科の福原啓太講師が講師を務め「青少年における認知バイアスについて～心の成長に向けたメタ認知～」をテーマに教職員のための公開講座を開催しました。



この度、「青少年における認知バイアスについて～心の成長に向けたメタ認知～」という演題で、お話をさせて頂きました。「認知バイアス(自身の認知の癖)を知り、それを自覚(メタ認知)することで、心にゆとりが生まれ、心の成長につながるのではないか」というテーマでした。精神科医療、臨床心理の領域における知識を出発点としまして、世の中の不可解な出来事を人の脳はどう捉え、どのように自分に都合よく解釈するのか。そして、その歪みは自認でき修正はできるのか、といったことを、

青年期のあるあるエピソードを交えながら紐解いていきました。その中で、青年期において陥りやすい認知バイアスの紹介も致しました。聴講された幼小中高の先生方は頷きながら、おそらくは、ご自身の教育現場でのエピソードと重ねながら聞いてくださったのではないかと思います。



「畑違い」とはよくいう言葉ですが、臨床現場と学校教育現場、いずれも対象者(要支援者と子供たち)の豊かな人生を願いながら、人を支える現場に変わりありません。医療と教育のそれぞれの知識や経験が相補的な形で役立てることが増えることを今後も願っております。

奈良学園大学周辺施設の紹介 南都銀行 登美が丘支店

近隣の「南都銀行 登美が丘支店」を紹介いたします。
ご原稿は、南都銀行 登美が丘支店 支店長 曾根宏之様
からいただきました。



南都銀行登美が丘支店は、昭和42年に奈良市中山町(現在の中登美ヶ丘1丁目)にて開設しました。その後、平成19年に現在の近鉄学研奈良登美ヶ丘駅前「リコラス登美ヶ丘」1階に移転、たくさんのお客様にご愛顧いただきながら現在に至ります。預金、ローン、預かり資産業務等を取り扱っており、店内ATMの他、イオンモール登美ヶ丘、いそかわイトーピア店にも店外ATMコーナーを設置し多くのお客様にご利用いただいております。



登美が丘支店では、「何でもお気軽にご相談ください。誠心誠意、親身な対応をいたします」をモットーにしています。バリアフリーはいうまでもなく多種多様なニーズにお応えできるよう取り組んでいます。コロナ感染防止対策の徹底もあり、シールドによる聴き取りが困難な場合や障害者、高齢者等へもきめ細かな対応を更に検討しております。

また、SDGsの環境の取組を意識して、美しい街づくりを地域の皆様と共にしていきたいと思っております。

地域の皆様へのご挨拶



奈良学園大学
保健医療学部
看護学科 教授
吉村 雅世

奈良学園大学保健医療学部看護学科は平成26年(2014)4月に中登美ヶ丘に開学し、地域の皆様に支えられ今日を向かえています。開学当時、開発途中であった大学敷地の北側は、今では住宅、マンション、飲食・自動車関連の商業施設が立ち並び、また商業施設の建て替えなどあり、より住みやすく活力のある街に変化していると感じています。看護学科も地域の変化と共に成長し、今年5回目の卒業生を送り出すことができました。おかげさまで今年の国家試験の合格率は看護師、助産師は100%、保健師は91.7%でした。新型コロナウイルス感染症の影響はありますが「看護の対象となる人を生活者として全人的に理解し、質の高い看護を実践できる人材」の育成に向け対面授業や病院・施設・関係各所のご協力による臨地実習を積極的に行っています。また研究機関としても新しい課題発見や探求に努めています。何らかの形で地域に貢献できればと考えます。今後共、よろしくお願い致します。

奈良学園大学の教員紹介

奈良学園大学 人間教育学部 人間教育学科

西江 なお子 先生



私は、家庭科教育を研究しています。これまで、公立・国立の幼稚園や小学校に勤務し、子どもたちの成長に深く携わってきました。大学では教員を目指す学生たちが教員に必要な資質能力を身に付けられるよう支援しています。また、小学校の先生方と「主体的・対話的で深い学び」を目指す、家庭科を基盤とした教科横断的な授業づくりについて一緒に考えたり、栄養教諭の先生方と協力して、子どもたちが食の大切さに気付くような食育活動を行ったりしています。

奈良学園大学 保健医療学部 看護学科

西薊 貞子 先生



「社会で輝く人材として育てて欲しい」という願いを持ち、学士教育と卒後教育の円滑な移行を目指すトランジション教育の研究に取り組んでいます。課題発見問題解決力は生涯にわたって必要となる能力ですから、日常の授業では、学生の皆さんの主体的で深い学びが高まるように、問題発見探究型のIBL (Inquiry based Learning) の工夫を重ねています。学生の皆さんと共に能力を磨き続けたいと思っています。

奈良学園大学 保健医療学部 リハビリテーション学科

城野 靖朋 先生



私は理学療法士で、脳や運動学に関連する授業を受け持っています。脳は神経の集まりなのですが、この脳と運動の関係をイメージしやすいのは、子どものころに人気者の必須アイテムであった「運動神経」という表現ではないでしょうか。私はこの「運動神経」に関する研究を行っており、最近では痙縮と呼ばれる脳卒中後の運動障害や、慣性センサー(スマートフォンについている加速度センサーやジャイロセンサー)を用いた運動解析などをテーマに「運動神経」の研究を行っています。

卒業生からのメッセージ



奈良学園大学
人間教育学部
人間教育学科
5期生
中林 志 さん

私は、奈良学園大学で小学校教諭、中学校数学教諭、高等学校数学教諭の免許資格を取得しました。

堺市の教員採用試験に合格し、中学校の教員になって1年目になります。

中学校では、生徒との関わり方に悩むこともありますが、楽しく過ごしています。また、部活動や行事など生徒主体で活動する機会も多く、授業とは違った一面を見ることもできます。

半年間しんどいことや不安だったことなどもありましたが、支えてくださる同僚の先生方や大学の仲間、奈良学園大学の先生方がいて、今続けられています。

特に、大学の先生方は教員採用試験の時から今も気にかけてくださり、アドバイスや勇気を与えてくださいます。この大学で4年間学ぶことができ、改めて良かったと思います。

在学生からのメッセージ



奈良学園大学
保健医療学部
看護学科 3期生
清水 颯 さん

私の目標は、人と人との関わりを大切に、患者さんに信頼されるような看護師になることです。現在は国際看護学領域で外国人看護師と日本人看護師の協働の在り方をテーマに卒業研究に取り組んでおり、これもグローバル化が進む中の医療現場でより良い看護につながるものと考えます。先月、海外研修にも参加しました。事前学習はして臨みましたが「百聞は一見に如かず」、伝統医療の継承や文化・風習を大切にされた医療・看護に驚くと共に、日本人の価値観や視点でタイの文化や歴史の表面を見ていたにすぎなかった自分に気づきました。こうした奈良学園大学での学びが実を結ぶように、国家試験合格を勝ち取るべく仲間と共に走り抜きたいと思います。

地域を素材にした学習を考える ～くろんど池を訪ねて～

前号に引き続き、社会科教育の澁谷ゼミの地域調査(ゼミ内通称「しづたび(旅)」)の報告をさせていただきます。今回のしづたびでは、生駒市高山町にある「くろんど池」に行ってきました。

くろんど池は、江戸時代に農業用水のため池として造られました。何度も規模拡大のための補修工事を行い、地域の米づくりに役立てられてきました。現在は、ため池を周遊する手こぎ・足こぎボート、「くろんど荘」という宿泊施設、バーベキュー場、キャンプ場といった施設があり、観光地としてにぎわっています(鯉やカモに餌やりもできます)。

調査をしている時に、仕事の帰りに毎日くろんど池に寄って帰るという方に出会い、話を聞くことができました。その方の話によると、くろんど池が一番映える季節は紅葉を迎えるこれからの秋の季節、凜と張りつめた空気が流れる冬だそうです。春夏はバーベキューやキャンプでにぎわうことを考えると、くろんど池はいつ訪れてもおすすめの場所といえそうです。

文：坂口勝洋・坂井千夏(人間教育学部3年生) 文責：澁谷友和

